

岩手県医師会 広報活動事例

1. ネット動画配信による四師会長対談企画
2. 医学生へ「医療プロフェッショナリズム」講義
3. 岩手県女性医部会と岩手医科大学学生との懇談会
4. 県民公開講座「いわて健康塾」
5. 県民公開講座「アドバンス・ケア・プランニング」
6. 盛岡市医師会における禁煙推進活動報告

1. ネット動画配信による四師会長対談

ネット動画配信による四師会長 対談企画

「 いわて医療・介護ミライLAB
～岩手県・医療介護の現状と未来を語る～ 」



一般社団法人 岩手県医師会



日本医師会 キャラクター

「日医君(にちいくん)」岩手県バージョン

・背景及び目的について

岩手県は、日本全国が直面している少子高齢化と人口減少の影響により、「医療需要の変化」「医療従事者の不足」「地域格差の拡大」など深刻な課題に直面している。これらの課題に対応するためには、医療専門職や行政、地域住民が一体となった取り組みが不可欠で、岩手県の現状や課題の可視化、今後の具体的な対策や連携施策の提案、一般県民への情報発信と理解促進の一助として活用できる。

・期待される効果について

県医師会・県歯科医師会・県薬剤師会・県看護協会の公式見解や取り組みを県民に直接伝えられる。また、他団体や行政との連携を具体的に示せることで、協働意識を高められる。県民をはじめ視聴者には、信頼の高い情報や方針を知らせることで、県民自身の健康や医療への関わり方を考えるきっかけが期待できる。

ネット動画配信による四師会長 対談企画 「いわて医療・介護ミライLAB～岩手県・医療介護の現状と未来を語る～」

YouTube配信について



令和6年7月盛岡市内で収録が行われました本対談企画は人材会社との連携・企画により、医療介護の課題に対して考える場を作りYouTubeを通して発信しました。岩手県医師会 本間 博会長、岩手県歯科医師会 佐藤 保会長、岩手県薬剤師会 畑澤博巳会長、岩手県看護協会 相馬一二三会長4名が参加して対談が行われたものを収録・配信しています。

内容は、岩手県の抱えている医療の現状と課題、課題に対する各会の取組状況、これらの課題への取り組みを通して今後の展開を行う上での構想について、各会の報告説明を行いながら対談が行われています。次のテーマに沿って、3つの動画配信が行われています。

#05 「人口減少における医療現場の現状と課題、解決と協力について」 No.1

テーマ：岩手県の医療課題の現状、医療従事者の働き方改革、妊産婦 小児医療の問題、医薬品の安定供給に向けての課題

(<https://youtu.be/4GI46BJevEo>)



#06 「人口減少における医療現場の現状と課題、解決と協力について」 No.2

テーマ：課題解決に向けての取り組み、医療従事者の偏在と人材不足の現状、DX化の現状と課題

(<https://youtu.be/GxeplrC87TY>)



#07 「人口減少における医療現場の現状と課題、解決と協力について」 No.3

テーマ：医療・介護における多職種連携のあり方、岩手県民に向けて一言

(https://youtu.be/T_29RkHKVFI)





医療と人口減少 を考える

対談の動画は
こちらから



相馬会長は、看護職の不足と高齢

煙澤会長は、薬剤師の不足、病院薬剤師の役割の多様化と在宅医療への対応について説明。奨学金返済支援や退職金返還の再雇用など、薬剤師の不足を補うための具体的な提案を行いました。

佐藤会長は、歯科医療の提供場所や在宅医療の課題、高齢化に伴う医療の難しさ、地域偏在の問題を指摘。特に、高齢化社会における医科歯科連携や介護との連携の重要性を強調し、職種間の協力が不可欠であると述べました。

ヒロキアスタッフ代表取締役社長の白沢さんは「この対談を通じて、岩手県の医療介護の現状と課題について理解を深め、共に未来を考えるきっかけになれば幸いです。ぜひ多くの方々にご視聴いただき、岩手県の医療介護の未来を共に築いていきましょう」と話します。人口が少なくなる岩手県、県民一人ひとりが医療の状況を理解することと未来がよいものにできるのかもしれない。

ンが進められるべきであり、医療従事者の確保と地域間のバランスを取るための具体的な方法が求められています。

本間会長は、少子高齢化による医療需要の変化と医療従事者の減少、地域間の医療資源の偏在について言及。特に、医師不足が深刻な沿岸地域では、医療提供体制の維持が困難であることと強調しました。また、医療のデジタル化などが必要であるとし、具体的な対策についても触れました。

佐藤会長は、歯科医療の提供場所や在宅医療の課題、高齢化に伴う医療の難しさ、地域偏在の問題を指摘。特に、高齢化社会における医科歯科連携や介護との連携の重要性を強調し、職種間の協力が不可欠であると述べました。

ヒロキアスタッフ代表取締役社長の白沢さんは「この対談を通じて、岩手県の医療介護の現状と課題について理解を深め、共に未来を考えるきっかけになれば幸いです。ぜひ多くの方々にご視聴いただき、岩手県の医療介護の未来を共に築いていきましょう」と話します。人口が少なくなる岩手県、県民一人ひとりが医療の状況を理解することと未来がよいものにできるのかもしれない。

計5名で、岩手県の人口減少に伴う医療ニーズの变化、そして岩手県独自の課題を議論し、具体的な解決策を模索していました。

各師会の抱える問題や取り組み

対談の中では、医師の働き方改革や医療従事者の偏在解消についても議論が交わされ、地域医療構想やICTの活用によるデジタルトランスフォーメーシヨ

医療・介護を考える場をつくる

今回のシニアズでは、株式会社ヒロキアスタッフと「いわて医療・介護ミライラボ」取材してきました。ミライラボは、県内の医療・介護分野における課題について関わる方が対談を行うことで、問題に向き合うことや、解決に向けての協業のきっかけになるのではとヒロキア

リアスタッフが始めた動画配信企画です。

今回の対談テーマは「人口減少における、医療現場の現状と課題。解決と協力について」ということで、出演者は岩手県医師会会長の本間博さん、岩手県歯科医師会会長の佐藤保さん、岩手県薬剤師会会長の煙澤博巳さん、岩手看護協会会長の相馬二三さんの4名に、司会の岩手県医師会常任理事の橋本真生さんの

この対談の内容はYOUTUBEで配信され、誰でも視聴可能だそうで、以下のコードやヒロキアスタッフのサイトからご覧いただけます。パソコンで検索する場合は「ヒロキアスタッフ」と検索してください。

2. 医学生へ「医療プロフェッショナリズム」講義

岩手県医師会 本間博会長が、医学部4年生を対象に「地域医療と医師の役割」と題し、医師としての社会的責任、医師会の歴史・役割、行政のカウンターパートとしての医師会、医療政策が実現するまでの過程の他、日本医師会や岩手県医師会が行う会員への各種支援について触れ、卒業後に医師会への関心を寄せていただくべく内容にて講演。



その後、佐久総合病院（長野県）藤澤郁哉先生、盛岡市立病院 藤原裕大先生、千田クリニック 千田恵美先生の3名による地域医療に関する講演後に、岩手医科大学の佐々木真理医学部長・伊藤智範教授の司会の下「地域医療と医師会の役割を咀嚼する」というテーマでフリートーキングが行われ、地域医療の実際と医師会役割の認識を深め、また将来における自分のキャリアを実感していただけたと思われる。

3. 岩手県医師会女性医部会と 岩手医科大学学生との懇談会



日本医師会女性医師支援センター「医学生、研修医等をサポートするための会」の助成を利用して開催。令和6年度は、女性医部会設立23年目にあたり、本懇談会も設立以来19回目となり、コロナ禍が明けてから、ようやく再開できた対面式での開催になった。岩手医科大学副学長 酒井明夫 先生による「西洋史における女性治療者の足跡」と題した講演が行われた。参加者数は65名で、これまでで最多の人数で、女子学生を中心に、県内の女性医師も多数参加いただき、情報交換会でも充実した時間を持つことができたと考えられる。

岩手医科大学学生の皆様へ

日本医師会・岩手県医師会
岩手医科大学医師会・岩手医科大学研究者支援室設置準備委員会 共催

～令和6年度 岩手県医師会女性医部会と
岩手医科大学学生との懇談会開催についてのお知らせ～

～開催にあたって～

私達、岩手県医師会には女性医部会があり、活動の一つとして学生の皆さんとの懇談会を年に一回開催してまいりました。新型コロナウイルスにより暫く中止となっておりましたが、今年度は久々に開催することとなり、副学長の酒井明夫先生から「ダイバーシティ」に関連する内容でご講演を頂きます。

医学部に限らず、歯・薬・看護の学生さんの参加も多数お待ちしております。

多様な科の中薬・看護
女性医師が多数参加予定！

【日 時】令和6年 11月12日(火) 午後6時30分

【場 所】アートホテル盛岡 3階「鳳凰の間」

(盛岡市大通3丁目3-18)



【講 演】《座長 岩手医科大学 生物薬学講座生体防御学分野
教授 大橋 綾子》

『西欧史における女性治療者の足跡』

岩手医科大学 副学長 酒井 明夫 先生

(講演終了後、懇談会となります)

【シャトルバスのご案内】



※矢巾キャンバスとアートホテル盛岡間に
無料シャトルバスをご用意いたします。

往路：矢巾キャンバス正面玄関前 17:40 発
復路：アートホテル前 21:30 発

問合せ先 岩手県医師会事務局

TEL: 019-651-1455 / E-mail: noda-no@iwatemed.jp

★参加費無料★
講演終了後、
立席の懇談会を行います。
懇談会のみ参加可！
事前申込み不要！

4. 県民公開講座「いわて健康塾」

2024年度「いわて健康塾」
過去の災害から今後の巨大災害に備えよう!
 ～災害医療の現状と避難時の心得～



近年は大地震や台風、豪雨災害などが頻発し、今後起こりうる災害への備えが重要で、災害現場での医療は、通常の医療とは異なり、多くの患者を少ない医師や看護師が、限られた物資や環境で治療をしなければなりません。
 今回は、東日本大震災や2016年の台風10号を振り返りながら、災害現場で治療を受ける当事者になった場合に事前に知っておきたい避難知識や、避難時に役立つ準備や心得を、災害医療が専門の岩手医科大学がやさしく説明します。

講師 眞瀬 智彦 先生
 岩手医科大学教授
 (救急・災害医学講座/災害医療センター長)

【略歴】
 岩手医科大学、国立中央病院救急科、
 外科、長崎県立総合医療センターなどを
 2022年4月から現職。

日時 2024年 **10/20日** **会場** アートホテル盛岡
午後2時～3時30分 「鳳凰の間Ⅱ」
 (開場は午後1時30分) 盛岡市大通3-3-18 ☎019-625-2131

【定員】100人 **入場無料・事前申込** 【司会】江口アミ(テレビ岩手アナウンサー)
 ◆主催:岩手県医師会/岩手読売会/テレビ岩手/読売新聞盛岡支局 ◆後援:岩手県/盛岡市/エフエム岩手

いわて健康塾申込書

ご住所 〒 希望人数 人
 氏 名 電話番号

岩手読売会 入場料を全額お支払いします。電話またはFAX、はがき、QRコードでお申し込み下さい。
 電話の受付は、平日 午前10時～午後4時。

電話 019-623-2215 FAX 019-625-7198
 〒020-0015 盛岡市本町通2-3-2 読売盛岡ビル3階

※応募の個人情報は、岩手読売会、YRが主催のイベント等、自店販出商品・イベント等の企画に利用させていただくことがあります。

専門医が医療の知識や考え方について伝える県民公開講座「いわて健康塾」を開催。眞瀬智彦岩手医科大学救急・災害医学講座教授、岩手県高度救命救急センター長が「過去の災害から今後の巨大災害に備えよう～災害医療の現状と避難時の心得～」と題して講演した。約80名の来場者を迎え、講演後に座談会形式で参加者からの質問にも回答され盛会であった。

【主催】岩手県医師会、岩手読売会、読売新聞盛岡支局、テレビ岩手

【後援】岩手県、盛岡市、エフエム岩手



5. 県民公開講座 「アドバンス・ケア・プランニング (ACP)」

Advance Care Planning
アドバンス・ケア・プランニング (ACP)

最期まで私らしく 「生きる」ために

～アドバンス・ケア・プランニング (ACP) を一緒に考えてみませんか？～

県民公開講座

日 時 令和6年12月15日(日) 14:00～16:30
会 場 岩手県医師会館 4階ホール
(盛岡市東園2丁目8番20号)
対 象 一般の方、医療関係者、介護福祉関係者、行政職員 等
申 込 事前の申し込みが必要です。
申し込み締め切り **12月10日(火)17時**。定員となり次第、締め切らせて頂きます。

入場無料
定員300名

特別講演

いざにんといろ
● **一人十色の死生観**
～最期まで私らしく「生きる」ために～
碧 祥 寺 太 田 宣 承 住 持

● **アドバンス・ケア・プランニング (ACP) について**
岩手県民の「生きる」を支える会
木 村 祐 輔 職 長
(岩手医科大学 緩和医療学科 特任教授)

● **岩手県医師会のアドバンス・ケア・プランニング (ACP) への取り組み**
岩手県医師会
滝 川 佐 波 子 常 任 理 事
(盛岡市内科クリニック 院長)

主 催 / 岩手県医師会・岩手県
お問合せ / (一社)岩手県医師会事務局 TEL.019-651-1455

【お申し込み】
こちらのQRコード
から申し込みできます。



■アドバンス・ケア・プランニング(ACP)についての県民公開講座を開催。岩手県医師会における ACPの取り組みについて紹介し岩手県医師会在宅医療センターの事業として、ACP県民公開講座、サポーター養成研修会、出前講座といった取り組みを行ってきたこと、『わたしの「生きる」ノート』の紹介を行った。その後、岩手県民の「生きる」を支える会議議長・岩手医科大学緩和医療学科特任教授 木村祐輔先生より「アドバンス・ケア・プランニング (ACP)について一緒に考えてみませんか？」と題して講演が行われた。特別講演は、碧祥寺住職・社会福祉法人光 寿会 太田宣承理事長により「一人十色の 死生観～最期も私らしく生きるために～」と題して行われた。約180名の来場者であった。

■公開講座終了後のアンケート結果

- ・ ACPについて知ることができ、あらためて死にむかうときの心構えを考えておくことが自分のみでなく、家族やまわりの人にとっても必要と感じた
- ・ ACPは、相手の人生を聴くことだなと思った
- ・ 今と10年後、考え方が変わっているかもしれないため、ずっと考え続けていくことが必要なのだと感じた

わたしの「生きる」ノート

幸せに歳を重ね、人生の最後まで自分らしく
豊かな人生を過ごすために

わたしの 「生きる」ノート



わたしの「生きる」ノート サポートブック

幸せに歳を重ね、人生の最後まで自分らしく
豊かな人生を過ごすために

わたしの 「生きる」ノート

サポートブック



入院などをきっかけに、今後、重病になったり体の機能が落ちたりした時のことに備えて、どこでどのような生活を希望し、どのような医療を期待し、さらに尊重してほしいこと、やってほしくないことなどについてあらかじめ患者と家族や大切な人、医師、ヘルスケアスタッフなどが何度も話し合いそのプロセスを「患者の思いを記入するノート」。

岩手県医師会ホームページよりダウンロードできます。

6. 盛岡市医師会における 禁煙推進活動報告

一般社団法人 盛岡市医師会

主な活動内容

🚭 吸い殻拾い活動

実施期間: 4月～11月の毎月第4日曜日

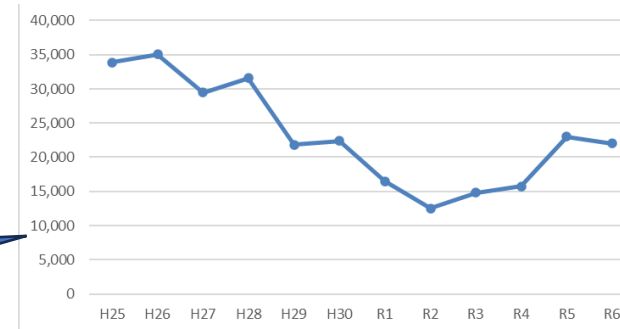
活動時間: 午前9時～1時間30分程度

活動コース: 盛岡駅前湊の広場→大通り→中ノ橋→岩手銀行赤レンガ館まで

参加者: 医師会会員だけでなく、家族従業員・一般市民も参加可能

平成25年から正式に活動を開始(有志による活動は平成17年頃から実施)

年々吸い殻の本数は減っているが、加熱式タバコの残骸が増えている(プラスチック等)



主な活動内容

🚭 受動喫煙防止条例制定要望

実施頻度: 毎年9月に盛岡市へ要望書提出(6年度で13回目)

参加団体: 盛岡市医師会、岩手禁煙推進ネットワーク

2024年 盛岡市歯科医師会、盛岡薬剤師会も参加(4団体)

要望書を読み上げ＝写真、内館茂市長は「要望をしっかり受け止め検討したい」と応じた。

要望書の提出は13回目。今回は両団体のほか、市歯科医師会（佐藤寿久会長）と盛岡薬剤師会（佐々木俊会長）が提出者に加わった。

4団体のメンバーら約50人がJR盛岡駅前から市役所まで歩いてたばこの吸い殻2397本などを拾った。



◆盛岡市医師会などが市に受動喫煙防止条例求める要望書 盛岡市医師会（吉田耕太郎会長）は15日、NPO法人岩手禁煙推進ネットワーク（小西一樹理事長）など4団体連名で、市に対し受動喫煙防止条例の早期制定を求める要望書を提出した。

市役所前で、吉田会長が「喫煙率は下げ止まりの状況で、受動喫煙防止策も不十分なまま放置されている」との

盛岡タイムス

ポイ捨て禁止条例制定を 盛岡市医師会 市に要望書提出

盛岡市医師会（和田 望書）を出すのは初め。利彦会長は23日、和田会長が盛岡市医師会（和田利彦会長）と市民3団体は23日、同市に「公共空間における喫煙やタバコのポイ捨てを禁止する条例」の早期制定を求める要望書を提出した。和田会長は写真から約50人が市役所を訪れ、条例の制定を訴えた。和田会長は「喫煙は日本人の発がんの主たる原因であるほか、受動喫煙によって周囲に健康被害をもたらしている。市民の喫煙率を下げ、たばこによる健康被害を可能な限り減らしたい」と力をめた。千本を市役所前に並べた。

市医師会では禁煙推進委員会（小西一樹委員長）を設置し、7年前から吸い殻拾いなどの活動を行ってきた。同日も関係者ら約50人が早朝から市内路の吸い殻拾いを開始し、7、8月の活動で回収した吸い殻も合わせ、約1万本が市役所前に並べられた。小西委員長は「たばこは決してマナーの問題ではなく、命の問題である」と訴えた。

和田部長は「要望については時期と周知については市長にお伝え盛岡市が問題。市では公共空間のたばこ立禁と、きれいな街はエチケットの問題と盛岡の素人向け、皆考えている。エチケットとでも今後とも取組んでいきたい」と述べた。条例の早期制定を求めている。たばこの吸い殻約1万3千本を市役所前に並べた。

条列早期制定を求める要望文を読み上げる市医師会の和田会長

岩手日報

◆盛岡市医師会などが喫煙に関する条例を要望

盛岡市医師会（和田利彦会長）と市民3団体は23日、同市に「公共空間における喫煙やタバコのポイ捨てを禁止する条例」の早期制定を求める要望書を提出した。和田会長は写真から約50人が市役所を訪れ、条例の制定を訴えた。和田会長は「喫煙は日本人の発がんの主たる原因であるほか、受動喫煙によって周囲に健康被害をもたらしている。市民の喫煙率を下げ、たばこによる健康被害を可能な限り減らしたい」と力をめた。千本を市役所前に並べた。

和田会長が市役所前に並べた。

主な活動内容



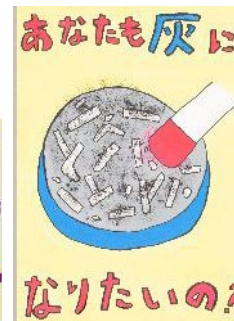
🚭 禁煙フォーラム岩手 ※過去16回開催

開催時期: 毎年10月 エスポワールいわて

内容: 専門医による講演、寸劇、〇×クイズ、禁煙ポスターコンクール表彰式

参加者: 約110名(2024年)

ポスターコンクールは15回開催



主な活動内容

🚭 イエローグリーンキャンペーン

実施期間: 5月31日～6月6日

参加機関: 市内医療機関、盛岡市保健所、盛岡市歯科医師会等

喫煙による健康被害は、喫煙者本人のみならず、受動喫煙した人にまで及びます。受動喫煙したくない気持ちや禁煙の重要性を伝えることを目的に、「世界禁煙デー」に合わせて盛岡市医師会館や市内医療機関、公共機関等をこの活動のシンボルカラーである「イエローグリーン」にライトアップしました

